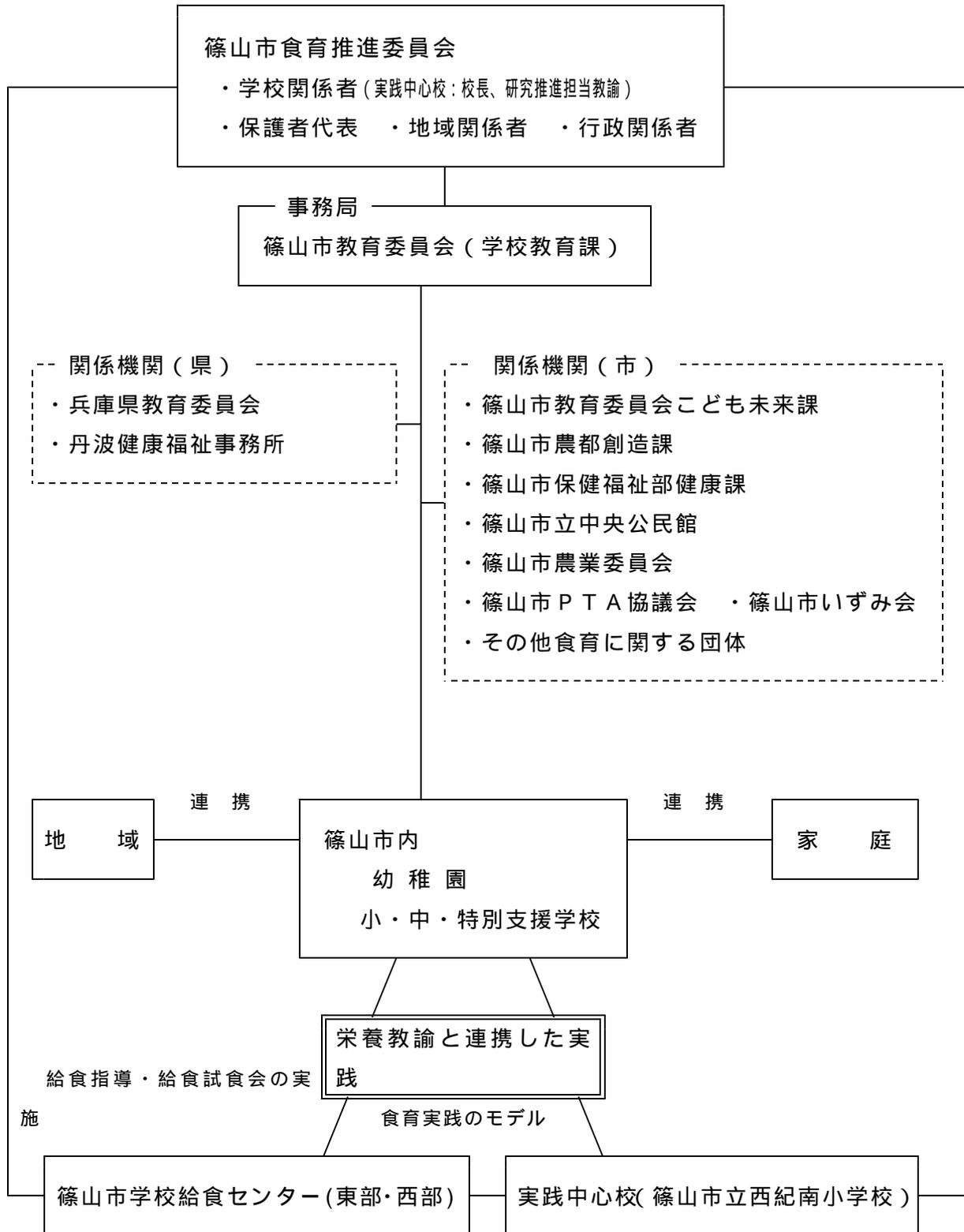


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	兵庫県
推進地域名	篠山市

1. 事業推進の体制



- ・第3学年学級活動「口中調味について」
- ・第4学年体育科「やさいとともだち」

栄養教諭が各学校の食育担当者や学級担任、教科担任と連携して、指導資料や教材の提供、チームティーチング等による食に関する指導の充実を図った。

各学校において地域の農業従事者等と連携し、子どもたちが食べ物大切さ、農業の重要性等を学ぶため、食と農を一体的に進める農業体験活動を行った。

学校給食センターの見学を通して、調理作業の様子や栄養バランスのとれた学校給食について学び、調理されている方の思いにふれさせるとともに感謝の気持ちを育む活動を行った。

実践中心校による研究発表会や授業公開、実践報告書の作成等により、研究の成果を市内の学校に広めた。

(実践中心校の取組)

研究テーマ

じまんしたい！おいしいふるさと～よりよい食文化に学び よりよい食習慣を育む～

各学年の取組

- ・第1学年学級活動「きゅうしょくパワーでげんきになろう」
- ・第2学年学級活動「すきな食べ物をふやそう～えいよういっぱい～」
- ・第3学年学級活動「イカはうまいか？」
- ・第4学年学級活動「おやおや？おやつ大研究」
- ・第5学年総合的な学習の時間「自然とわたしたちのいのち」
- ・第6学年総合的な学習の時間「見つめよう！地域の歴史・食文化～地域の郷土料理行事食について調べよう～」
- ・特別支援学級生活単元「給食献立のそぼろ丼を作ろう！」

学校給食の取組

- ・学級担任による指導
給食指導年間計画に基づき、
児童の発達段階に応じて指導する。
- ・栄養教諭による給食の時間の指導
栄養教諭が各学級に入り、一緒に給食を
食べながらより良い食べ方や食べ物、献立、
調理の様子についての話をする。



研究発表会

- ・平成24年2月2日(木) 於：篠山市立西紀南小学校
- ・授業公開、研究発表、講演会
講演会講師：総合医療研究所所長 医学博士 金華洙先生

テーマ1～2に共通する具体的計画

「篠山市食育推進計画」に基づいた食育を推進する。
実践中心校や食育を推進している学校の先進的な取組を紹介し、
研究の成果を広めるとともに、各学校や幼稚園が各校園の実態
に応じて活用できるようにする。
食育推進大会などで、食育についての共通理解や啓発を図り、
市全体で望ましい食習慣や生活習慣づくりを進める。



数字で変化のあった事項について

学校における指導体制等の整備状況（平成23年1月 平成24年3月の比較）

- ・食に関する全体計画の作成 91% 100%

全体計画の作成率増加については、中学校での作成が増えたことによるものである。年間指導計画の作成については、昨年度作成のものの見直しを進めている学校が多く、それぞれの学校における具体的な取組が積み重ねられている。

食育に関するアンケート結果（実践中心校）

[児童] 6月と12月の調査結果から

- ・朝食メニューがパンorごはん+おかず+汁物・飲物である。(21% 23%)
- ・給食できらいなものが出てきた時も食べる。(68% 78%)
- ・ゆっくり良く噛んで食べる。(57% 77%)

[児童] 12月のみの調査から

- ・食育の学習は楽しい。(73%)
- ・食べ物について、知りたいと思うことが増えた。(67%)
- ・好きな食べ物が増えた。(65%)
- ・苦手な食べ物も食べるようになった。(69%)
- ・残さずに最後まで食べるようにしている。(88%)

[保護者] 6月の調査から

- ・食事のあいさつをさせている。(88%)
- ・箸を正しく持たせている。(93%)
- ・正しい姿勢で食べさせている。(95%)
- ・ゆっくりよくかんで食べるようにしている。(81%)
- ・朝食を毎日食べさせている。(98%)
- ・できるだけ食事の手伝いをさせるようにしている。(59%)
- ・夕食を楽しく食べる雰囲気づくりをしている。(74%)
- ・嫌いな食べ物（食材）をできるだけ食べさせている。(52%)
- ・ふるさとの特産物を意識した献立を作ることがある。(58%)

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

実践中心校においては、食育を柱にした基本的な生活習慣の確立を課題として取組を進めてきた。食育を継続的に行うことで、食習慣や生活習慣が少しずつ改善され、子ども達が、食に関する知識と食を選択する力を習得し、生涯にわたる健康につながる望ましい食習慣を形成することにつながってきている。また、よりよい食習慣は家庭の力に負うところが大きく、児童の食の実態を把握するとともに、保護者へのアンケート調査を通して学校の食と家庭の食をつなぎ、家庭と連携した食育の推進を図ることができた。

篠山市では、平成20年3月策定の篠山市食育推進計画に基づき、家庭や地域、各種団体や行政などが互いに連携協力しながら食育を推進してきている。平成23年度も、学校、地域保健、農業の部署が連携し、それぞれが行ってきた食育の取組や人材をさらに広げて発展させ、人や活動のつながりを強めることで更なる食育の推進を図ることを目的として「篠山市食育推進大会」を実施することができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

栄養教諭が配置されていない学校における食育の一層の推進

栄養教諭の所属校以外での食に関する指導等により、各学校での食育の取組が広がってきている。しかし、栄養教諭が市内のすべての学校へ出向いて一律に指導することは難しい。実践中心校での取組の成果を活用して、各学校の食育担当者等が中心となって、年間を見通した指導計画のもと栄養教諭との連携を図っていくことで、食に関する指導の効果を高めていくことが大切である。

児童生徒の基本的な生活習慣の確立と家庭との連携

給食試食会の実施、食育だよりによる情報提供、学校給食の献立を生かした親子料理教室の開催等により、保護者に対して食育に関する啓発を行ってきた。その結果、食育への関心は高まり、児童生徒の食生活にも改善が見られるようになってきている。今後も家庭への働きかけを積極的に行い、連携を深めながら、食育の取組を充実させていく必要がある。

地域の人材や食材の活用を通じた地域との連携

地域の人材や食材を活用した学習計画を立案し、食と農を一体として捉え、地域が育んできた「食と農」についての関心・知識を深め、地域食材の活用や郷土料理の継承等地域の特色を生かした食育を推進していくことが重要である。

